

2015年度第1版




JRFU セーフティーアシスタント 認定講習会




安全対策委員会

セーフティーアシスタント制度

競技規則
第6条A.5.(a) Entering or leaving the playing area
競技区域への出入り
「許可の出ている医療的訓練を受けた者は、試合中、負傷したプレーヤーを救護するために競技区域に立ち入ることができる。ただし、立入りが安全な場合に限る。」

* 日本協会では、競技規則第6条A.5.(a)に基づき、レフリーが試合中の競技区域に入る許可を与えるものとしてセーフティーアシスタント制度を導入する。

医師(チームドクター)、医療資格保有者、アスレティックトレーナー等においても、ラグビー競技に関する知識を共有するため、セーフティーアシスタント認定講習会の受講が必要となる。

セーフティーアシスタント制度設立の背景

- 旧メディカルサポーター制度では、メディカルサポーターを「医務心得者」と定義していた。
- 本来の意味における「医務心得者」は、一般的に相当の教育を受けた者との解釈から、2012年度より名称を変更し、「セーフティーアシスタント制度」とした。同時に運用内容も一部修正をした。
* 従来の「メディカルサポーター」という名称は、医務関係者を想起させる虞があることも考慮した。



-2-

セーフティーアシスタント認定資格

- 日本協会及び各都道府県におけるセーフティーアシスタント認定講習会を受講し、適格であると判断され、所定の手続きを経た者へ日本協会が認定する。
- 有効期限は発行より**4年間**とし、更新は日本協会が指定する安全対策にかかわる各種講習会および日本協会及び各都道府県協会におけるセーフティーアシスタント認定講習会を受講することにより、資格を継続する事が出来る。
- 更新年度以前に対象講習会を受講し、認定証発行を希望し発行されたものは、最新の認定証の有効期限4年を有効とみなす。



-3-

セーフティーアシスタント認定講習会受講条件

- ラグビー競技の現場における安全管理を志すものまたは担うもの。
- 年齢は15歳以上であること。
* 中学生以下は不可
- ラグビー競技を理解**し、セーフティーアシスタント職務を行える身体であること。
* ルールを正確に理解し、又ゲームの流れをある程度推察でき、状況に応じて機敏に行動できる能力ならびに身体を有するもの。



-4-

- ラグビーで生じやすいスポーツ外傷・障害について基礎的な事項を理解していること。
* 講習会等において、スポーツ外傷・障害についての基礎的知識を習得し、それを実践できる能力を有すること。



-5-

セーフティーアシスタントの役割

「セーフティーアシスタントは、試合の進行を円滑にし、プレイヤーの安全を図る。」

* ルール上**レフリーの補助者**であり、本来の役割を充分認識し行動すること。



-12-

セーフティーアシスタントの任務

セーフティーアシスタントは、試合の前にレフリーにセーフティーアシスタント認定証(手帳含む)を提示し、セーフティーアシスタントであることを告げレフリーの指示に従う。

<負傷者が出たと判断した場合>

直ちに競技区域内に入り、試合の継続を妨げないようにすみやかに負傷者の所に行く。

<負傷が軽度な場合>

その場で処置を行う。処置が長引くようであれば、競技区域外にプレイヤーを出して処置を行う。競技区域外に出たプレイヤーが競技に復帰するときには、レフリーにその旨を告げ許可を得なければならない。

<軽度の負傷でないと判断した場合>

直ちにレフリーに手をあげて知らせ、レフリーの指示に従う。



-13-

セーフティーアシスタントの心得

- 負傷者が出たと判断した場合は、**躊躇することなく**、直ちに競技区域内に入る。
- ラグビー競技、**ルールを良く理解**し、どのような状況で怪我が起きるかを**直感的**に感じる。
- 迅速かつ機敏**な行動を心がける。



-14-

セーフティーアシスタントの服装、及び所持品

<服装>

基本的には、トレーニングウェアの上下(ウインドブレーカーは可)及びそれに準じる靴を着用し、試合中は、協会指定のビブス等を必ず身に付ける。

<所持品>

水・氷・タオル・綿・テーピング用テープ・包帯などその他最低限の必需品を持参する。

状況に応じては、担架、副木など救急用品は、競技区域外に準備して置くことが望ましい。



-15-

服装・持ち物



服装



持ち物



グラウンドサイド準備物品

-17-

レフリーシグナル



医務心得者を呼ぶ場合



プレイヤーが出血した場合



医師を呼ぶ場合



プレイヤーの交代が必要な場合

-18-

セーフティアシスタントとしての医学的基礎知識

- 日本協会発行
「ラグビー外傷・障害対応マニュアル」
参照
- ラグビー外傷の発生機転と発生状況
- ラグビー外傷への対応 及び
RICEからCPR・AEDまで
- IRB第10条医学的関連事項については、
「年鑑(チーム名簿)」を参照すること。

